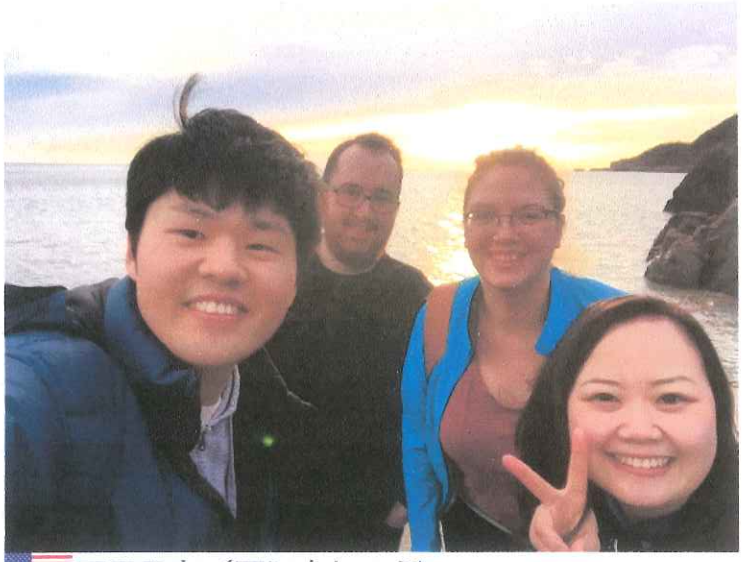
アラスカ大学アンカレッジ校留学報告



アラスカ／アンカレッジ

必要なのは英語力ではなく、コミュニケーション能力

アンカレッジを留学先に選んだのは、英語が母語として話されているアメリカの中でも、地元北海道と似た気候と環境で、のびのびと英語を勉強できると思ったからです。異なる価値観・文化を持った人たちが暮らす土地で上手く生活していくには、英語力よりもコミュニケーション能力の方が大切でした。ただ英語で話すだけではなく、どのように自分の意見を伝えるかで結果は大きく変わってきます。最初はあまり直接的に意見を言わない日本人的感覚からすると、アメリカのコミュニケーションの仕方は慣れない部分もありましたが、徐々に理解し、「ユウスケは上手く話せているね」と友達に言われたときは大きな達成感を感じることが出来ました。

チューターや旅行を通して、色んな人と親しく

授業以外に、アルバイトとして日本語チューターをしていました。授業の課題だけでもかなり忙しかったのですが、日本語を勉強している学生との交流がしたい気持ちと、経済

■留学者

北海道教育大学旭川校
英語教育専攻４年
羽澄悠輔

■留学の種類

語学留学

■滞在期間

平成 28 年 8 月 22 日
～平成 29 年 5 月 9 日
（約 10 か月）

■滞在方法

シェアハウス

■学校

University of Alaska Anchorage （アラスカ大学アンカレッジ校）

■留学の理由・目的

教師として働く前に、英語圏で英語や外国の文化を勉強してみたかったため

的負担を減らしたいのもありチューターに挑戦しました。日本語専攻の学生はよく遊びに誘ってくれて、ボルダリングやハイキング、アラスカならではのアクティビティを楽しみました。また、冬休みには旅行に行き、現地で出会った人とその場で意気投合して飲みに行くことも。彼らとは今でも繋がりがあり、今度は日本で会おうと約束しています。こうして色々な場所に繋がりができ、世界に自分の居場所がまた一つ増えたと感じることが出来ました。

Flat top でハイキング

日本語イマージョンプログラムの見学

アンカレッジでは外国語教育が盛んです。スペイン語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・日本語など色々な言語を中学校や高校で学ぶことが出来ます。中でもスペイン語と日本語は小学校からのイマージョンプログラムがあり、大学の教授に紹介していただきサンドレイク小学校の日本語の授業を見学してきました。日本語でも生徒が授業についてこれるよう、説明が複雑になりそうな所などポイントを押さえて、動作や視覚教材を使って上手く説明されていました。生徒も先生の意図をくみ取って活動についてきていて、言語教育の新たな可能性を感じました。

友達が貸してくれたカヌーで湖を散策

サンドレイク小学校での授業の様子

異文化理解の重要性

アンカレッジはアメリカ人だけではなく、ネイティブの人々や、ヨーロッパ・アジアなど色々な文化圏から来た人たちがいます。日本では触れることのできない文化や習慣との出会いは、大きな成長を与えてくれました。また、自国の文化の良さを再認識することもできました。自分とは違う立場に立って初めて見えてくるものがあります。英語力だけではなく自分に新な視点が生まれ、いろいろな人とともに生きていく力が身に付けられたと感じています。

海外でしか得られない経験を数多くすることが出来ました。支えてくれた家族、友人、先生、大学の事務の方、そして馬場財団様、本当にありがとうございました。

アラスカならではの氷河と大自然